

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3208085号
(U3208085)

(45) 発行日 平成28年12月22日 (2016. 12. 22)

(24) 登録日 平成28年11月30日 (2016. 11. 30)

(51) Int.Cl. F 1
A 4 5 C 11/00 (2006.01) A 4 5 C 11/00 Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願2016-4881 (U2016-4881)
 (22) 出願日 平成28年10月7日 (2016. 10. 7)

(73) 実用新案権者 594159456
 株式会社マキテック
 愛知県名古屋市熱田区旗屋一丁目9番2 1
 号
 (74) 代理人 100101937
 弁理士 安瀬 正敏
 (72) 考案者 石黒 大一朗
 愛知県名古屋市熱田区旗屋一丁目9番2 1
 号 株式会社マキテック内

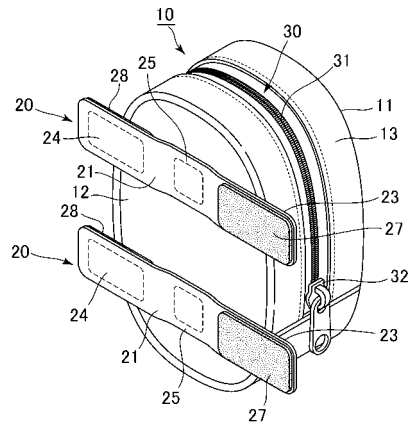
(54) 【考案の名称】 小物入れ

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】杖、車椅子、シルバーカーなどの介護用品の棒状部分(パイプ)に安定した状態で取り付けて使用することが可能な、小物入れを提供する。

【解決手段】前面部1 1、背面部1 2及び周面部1 3を有する略楕円箱型状の小物入れ本体1 0と、該背面部に配置され、杖、車いす、シルバーカーなどの介護用品の棒状部分(パイプ)に着脱自在に巻き付けて小物入れ本体をパイプに安定した姿勢で取り付ける2本の取付けバンド2 0とを備える。取付けバンドは、可撓性を有するテープ状のバンド片2 1と面ファスナー(ループ部2 7、フック部2 8)とを備える。パイプに巻き付けたときに重なり合う、バンド片の一方の端部の面にループ部を設け、バンド片の他方の端部の面にフック部を設ける。

【選択図】 図 1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

スライドファスナーにより開閉される開閉部を有する小物入れ本体と、該小物入れ本体の背面に配置され、棒状部材に着脱自在に巻き付けて小物入れ本体を該棒状部材に安定した姿勢で取り付けるための取付けバンドとを備え、

前記取付けバンドは、前記棒状部材に巻き付けたときに重なり合う、一方の端部の面と他方の端部の面に面ファスナーを設けたことを特徴とする、小物入れ。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、杖、車椅子、シルバーカーなどの介護用品に簡単に取付けることが出来る小物入れに関する。

【背景技術】**【0002】**

歩行の際の補助として杖を使用している者にとって手が自由に使えるようにすることは重要である。このため、小物入れ（ポーチ）は、ショルダーバック、リュックサックなどに装着するか、あるいは衣服に装着するなどしている。

【0003】

例えば、ポーチに留め具を設け、ショルダーバックやリュックサックのベルト部分や衣服のポケットなどに装着できるようにしたものが知られている（特許文献 1 参照）。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0004】**

【特許文献 1】実用新案登録第 3 1 7 0 3 9 3 号公報

【考案の概要】**【考案が解決しようとする課題】****【0005】**

しかし、ポーチからティシュペーパー、ハンカチなどを取り出す際には、ポーチが手許になく、一旦ポーチをショルダーバックやリュックサックのベルト部分や衣服のポケットなどから取り外さなければならず、面倒である。

【0006】

そこで、ポーチを杖に取付けることが出来るようにすれば、ポーチを手許に位置させるようにすることができ、使用に便利であるが、これまで提案されたポーチでは、杖のような棒状のもの（例えばパイプ）に安定した姿勢（状態）で取り付けることが難しい課題がある。

【0007】

本考案は、杖、車椅子、シルバーカーなどの介護用品の棒状部分（パイプ）に安定した姿勢（状態）で取付けて使用することが可能な小物入れを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】**【0008】**

本考案の請求項 1 に記載の小物入れはスライドファスナーにより開閉される開閉部を有する小物入れ本体と、該小物入れ本体の背面に配置され、棒状部材に着脱自在に巻き付けて小物入れ本体を該棒状部材に安定した姿勢で取り付けるための取付けバンドとを備え、前記取付けバンドは、前記棒状部材に巻き付けたときに重なり合う、一方の端部の面と他方の端部の面に面ファスナーを設けたことを特徴とする。

【考案の効果】**【0009】**

本考案によれば、取付けバンドを杖、車椅子、シルバーカーなどの介護用品の棒状部材に巻き付けて、一方の端部の面と他方の端部の面を重ね合わせて面ファスナーで閉じることにより、小物入れ本体を安定した姿勢（状態）で杖、車椅子、シルバーカーなどの介護

10

20

30

40

50

用品に取付けて使用することができる。

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】本考案の小物入れの一実施例を示す、取付けバンドを展開した状態の背面側から見た斜視図である。

【図2】図1の取付けバンドの部分を示し、図2(a)は横断面図、図2(b)は背面図、図2(c)は正面図である。

【図3】図1に示す小物入れを杖に取付けた状態を示す、参考のための背面側から見た斜視図である。

【考案を実施するための形態】

10

【実施例1】

【0011】

図1乃至図3は本考案の小物入れの一実施例を示す。

【0012】

本実施例の小物入れは、前面部11、背面部12及び周面部13を有する略楕円箱型状の小物入れ本体10と、この小物入れ本体10の背面部12に配置された2本の取付けバンド20とを備える。2本の取付けバンド20は、小物入れ本体10を、杖、車いす、シルバーカーなどの介護用品の棒状部分(パイプ)P(図3参照)に安定した姿勢(状態)で取付けるもので、小物入れ本体10の短辺方向に沿って延び且つ背面部12にその長辺方向に適宜間隔をあけて互いに平行に配置される。

20

【0013】

小物入れ本体10は、その内部が複数の収納部に仕切られており、周面部13には、その幅方向中央に該周面部13に沿ってスライドファスナー30によって開閉される開閉部31が設けられる。開閉部31は、小物入れ本体10の底部を除いた上半分に相当する周面部13に設けられる。

【0014】

取付けバンド20は、パイプPに巻き付けることができる可撓性を有したテープ状のバンド片21と、面ファスナー(ループ状に密集して起毛されたループ部27とフック状に起毛されたフック部28)とを備える。バンド片21は、パイプPに巻き付けた時、その長辺方向の一端部23と他端部24とが十分に重なり合う長さに設定される。バンド片21の互いに重なり合う一端部23の面と他端部24の面に面ファスナー(ループ部27とフック部28)が配置される。詳しくは、バンド片21の一端部23の、他端部24の面上に重なる面にループ部27が配置され、その他端部24の、一端部23の面が重なり覆われる面にフック部28が配置される。バンド片21は、その正面側を小物入れ本体10の背面部12に向けて、その長辺方向中央部分25を該背面部12に縫い付けることにより小物入れ本体10に取り付けられる。本実施例では、バンド片21は、パイプPの周面に接する背面側をバンド片21がパイプPに対して滑らないゴムや合成樹脂などの滑り止めシートから構成し、パイプPの周面に接しない正面側を繰り返しの使用により滑り止めシートが破断しないように補強する布製シートから構成した二層構造になっている。

30

【0015】

バンド片21を一端部23が上側で他端部24が下側に重なり合うようにパイプPに巻き付けて一端部23を他端部24に押し付けることにより、ループ部27とフック部28とが互いに絡み合って、バンド片21の一端部23と他端部24とが容易に外れないように連結されてバンド片21が閉じられる。また、上側のバンド片21の一端部23を他端部24側から引きあげるように引っ張ると、ループ部27がフック部28から引き剥がされてバンド片21が開かれる。

40

【0016】

本実施例では、小物入れ本体10の背面部12に、その長辺方向に適宜間隔をあけて取付けバンド20を2本配置した場合を示しているが、これに限定されるものではない。例えば、小物入れ本体10の長辺方向の寸法が短い場合には、その長辺方向中央部に取付け

50

バンド 20 を 1 本配置してもよい。要は小物入れ本体 10 がパイプ P の軸方向に沿って傾かずに安定した姿勢を保つように、小物入れ本体 10 の背面部 12 に必要な本数の取付けバンド 20 を配置すればよい。また、テープ状のバンド片 21 ではなく、略正方形状のバンド片 21 であってもよい。この場合、パイプ P に接する面を大きく確保できることからバンド片 21 は 1 枚で済む。

【 0017 】

図 3 を参照して本実施例の小物入れの使用例について説明する。

【 0018 】

小物入れ本体 10 を杖のパイプ P に沿って起立させ、各バンド片 21 の背面側をパイプ P の周面に当てた状態で、各バンド片 21 を、その一端部 23 が他端部 24 上に重なり合うようにしてパイプ P の周面にしっかりと巻き付けて、一端部 23 を他端部 24 側に押し付けると、ループ部 27 とフック部 28 とが互いに絡み合っ、各バンド片 21 の一端部 23 と他端部 24 とが容易に外れないように連結される。これにより、各バンド片 21 の背面がパイプ P の周面に密着した状態となって滑らず、小物入れ本体 10 を安定した姿勢で杖に取り付けることが出来る。小物入れ本体 10 を杖の上端に設けられる把持部の近傍に取り付けることにより、杖の使用者の手許に小物入れ本体 20 が位置することになり、使用に便利である。

10

【 0019 】

本考案の小物入れは、杖の他に車椅子やシルバーカーなどの介護用品のパイプ P にも安定した姿勢で取り付けることが出来る。

20

【 0020 】

本考案の小物入れは、上記実施例に示したものに限定されるものではない。例えば、小物入れ本体 10 を楕円箱形状以外に、円筒形状や方形箱形状に形成することも出来る。また、小物入れ本体 10 の表面に模様を付してもよい。

【 産業上の利用可能性 】

【 0021 】

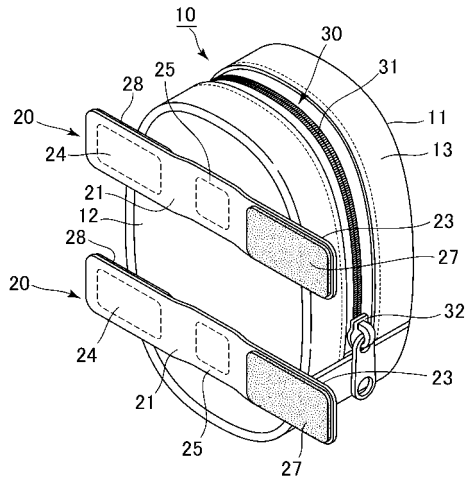
本考案の小物入れは介護用品のパイプ P の個所に取付けて使用することが出来る。

【 符号の説明 】

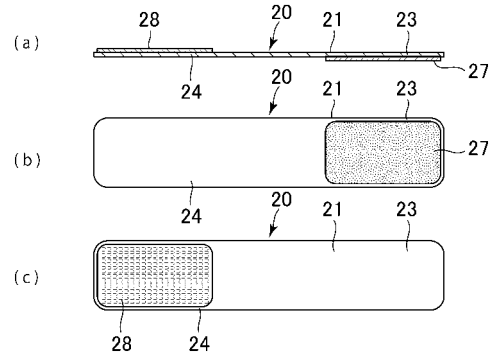
【 0022 】

10	小物入れ本体	30
11	前面部	
12	背面部	
13	周面部	
20	取付けバンド	
21	バンド片	
23	一端部	
24	他端部	
25	長辺方向中央部分	
27	ループ部	
28	フック部	40
30	スライドファスナー	
31	開閉部	
32	スライダー	
P	パイプ	

【 図 1 】



【 図 2 】



【 図 3 】

